平成十年十二月十六日第三種郵便物認可　第一〇四号　令和三年三月一日発行　年四回（六月・九月・十二月・三月の一日）発行

生きる力

SHINGON

特集

祈りの実践と「生きる力」

―祈りに灌（そそ）がれる仏さまの力「洒水加持（しゃすいかじ）」と寺院行事―



弘法大師 空海
ご誕生 1250年
令和5年（2023年）

生きる力 SHINGON
Vol. 104

真言宗智山派

智山寺院探訪

福島県東白川郡塙町

医王山 薬王寺

福島八十八ヶ所第十七番札所
奥羽三十六薬師第二十三番所

境内に入ると大きな銀杏と、どっしりと屋根を構えた薬師堂が目に飛び込んできます。取材に訪れた十一月は銀杏も黄葉の真っ盛り。今回は福島県東白川郡の塙町にて、米山薬師として信仰を集める医王山薬王寺をご紹介いたします。

薬王寺は、大同二年（八〇七）に弘法大師空海によって開山されたと伝わっています。米山という標高三五〇メートルほどの山の頂に堂宇を開き、山岳修験道場として大いに栄えていました。しかし、この米山山頂に参拝するのは大変難儀でしたので、市井の人々でも参拝しやすいように、寛政二年（一七九〇）現在の薬王寺がある台宿という場所に、薬師堂が建立されました。この薬師堂は多くの信徒の寄進によって建立され、米山山頂にある薬師堂を奥ノ院とし、その「お仮屋」として現在の薬師堂に薬師三尊が安置されました。

〝造りかけ〟の薬師堂

薬師堂は宝形造のどっしりとした屋根をしており、茅葺き屋根に銅板をかぶせています。このお堂は不思議な造りをしており、ところどころが〝造りかけ〟になっています。軒の張り出しには回廊がなく、柱には回廊の板をはめこむ溝が彫ってあるだけです。また外陣として使用するためか、鴨居には障子をはめる溝が



銀杏色づく境内。写真中央が薬師堂、左が本堂。香炉の右に見えるライトアップ用の投光器が、夜の銀杏を浮かび上がらせます。

ありますが、そのままの状態になっています。これは江戸時代中期・松平定信公の寛政の改革による、倹約令によって不急の事業を停止させられたため、この薬師堂の建築も、工事を途中で取りやめてしまったそうです。

日本三大薬師　米山薬師

堂内に入ると、お堂でよく見かける格子の天井がなく、屋根の内側から茅葺きの様子を直接目にすることができます。須弥壇中央の厨子には、ご本尊の薬師如来が安置されています。柔らかでありながら凛々しい顔立ちをされた坐像は左手に薬壺を携え、右の手は人々の畏れを除く施無畏の印がなされています。厨子の扉には薬師如来を守護する十二神将が描かれ、当時の鮮やかな彩色をいまに伝えています。また厨子には十二神将とともに弘法大師空海が描かれており、開山の縁起をうかがうことができます。

中央の厨子の左にはもうひとつ厨子が置かれ、中には焼け焦げた痕がのこる坐像が納められています。この坐像は米山山頂にあった奥ノ院の薬師如来です。昭和三十九年、奥ノ院薬師堂は火災により焼亡してしまいます。その燃え盛る炎の中から、なんとか助け出した薬師如来さまです。残念ながら火災によって現在のお姿は輪郭を留めているのみですが、手を合わせてお顔を拝見すると、当時のお顔立ちが目に浮かぶような気がします。

薬師の霊験

この薬師如来の霊験はあらたかであり、次のような逸話が残されています。

いまから千年ほど昔のことでありました。世は嵯峨天皇の治世であり、このころ全国的に疫病が蔓延し人々は大いに苦しんでいました。それを憂いた嵯峨天皇は、薬王寺に疫病退散の祈願をしたところ、たちどころに疫病が治まり天下に平穏が戻ったそうです。この霊験から薬王寺に対し、唐金の十六菊花の御紋章を下賜されたのだそうです。現在でも薬師堂の大屋根や境内の随所に十六菊の紋が掲揚されているのはこの逸話によるものです。

また、薬師堂には大きく「め」と書かれた額が奉納されています。昔から薬師如来は眼病に効く仏さまとして信仰されていますが、こちらの薬師如来も眼病に大変なご利益があり、どこで祈願をしても治らなかった眼病が、薬王寺で祈願したところすっかりと治ったことから、この額が奉納されています。


①


③


④


②

①素木づくりの薬師堂は、この地方には珍しい大変雄大なつくりである。福島県指定重要文化財。

②大変珍しい、作りかけの姿を残すお堂である。天井がないため、高さのあるお堂は外見より大変広く感じられる。

③火災からかろうじて運び出された薬師如来像。坐像は厨子風御輿（福島県指定重要文化財）に納められており、かつての出開帳では、この御輿をかつぎ道中を練り歩いた。

④金の箔押しがされた薬師如来坐像。脇侍には日光菩薩、月光菩薩が仕えている。江戸の頃の作と推定されている。

鐘もみ祭り

焼亡した奥ノ院薬師堂には、現在でも鐘楼堂が残っています。奥ノ院薬師堂の「お仮屋」として建立された薬王寺薬師堂は、四月八日の花祭りにあわせ、奥ノ院薬師堂から薬師如来像が出開帳する際のお堂としても用いられていました。薬師如来が米山から出開帳する際には、ご本尊を厨子風御輿に乗せて、鐘楼堂の鐘を丸太にくくり、台宿の道中を練り歩きながら鐘を叩く「鐘もみ祭り」が行われていました。この祭礼は江戸時代の頃から行われておりましたが、奥ノ院薬師堂が焼亡した際に一時途絶えてしまったといいます。しかし、現在では再興され三年に一度、五月の連休のころに「疫病退散」や「五穀豊穣」を祈る町をあげた祭礼として行われています。

「鐘もみ祭り」で運ばれてきた釣り鐘は、一週間ほど薬王寺に置かれ、また米山山頂へと戻されます。しかし、それでは三年に一度しか釣り鐘を目にすることができないため、平成四年に新たに釣り鐘と鐘楼堂が寄進されました。この釣り鐘は、住職と檀家さんが自ら富山の高岡まで出向き、鋳造に使う銅板一枚一枚をお加持して造られたのだそうです。

ご住職の大友栄範師はこう語ります。「薬王寺がここまで発展してこられたのは、檀家の皆さまや地域の方々のおかげに他なりません。昨今の社会では忘れがちになっていますが、この〝おかげさま〟という気持ちは本当に大切なものです」。

薬王寺では阿字観会や御詠歌の会などを開催するだけではなく、「鐘もみ祭り」を始めとした地域の興隆の要となっています。薬王寺薬師堂が現在の場所に建てられた理由には、人々を高い山頂から見下ろすのではなく、人々の近くに寄り添い、ともに歩んでいこうという願いがあったのではないでしょうか。大友住職と、副住職の禎悠師による薬王寺護持興隆の取り組みからは、そのような脈々と続く薬王寺の地域への関わり方が見てとれるようです。

銀杏の黄葉が目に鮮やかな秋だけではなく、四季折々の風景がここ薬王寺を包んでいます。薬王寺のある塙町は、いくつもの温泉もあり風光明媚なところです。みなさまも是非一度お参りされてはいかがでしょうか。

（智山教化センター所員／中嶋亮順）

撮影／清水健）


⑧


⑦


⑤


⑥

⑤回向法要などを行う本堂。ご本尊は金剛界大日如来。
⑥地蔵尊堂と地蔵菩薩の石像。毎月24日には地域の人が集まり数珠繰りが行われている。
⑦推定樹齢600年を超える大銀杏。11月の中旬が黄葉の見頃であり、多くの人が訪れている。
⑧ご住職の大友栄範師と、副住職の禎悠師。



ACCESS アクセス

医王山　薬王寺

〒963-5341　福島県東白川郡塙町台宿大久保53

Tel　0247-43-1771

電車：JR水郡線磐城塙駅から徒歩15分

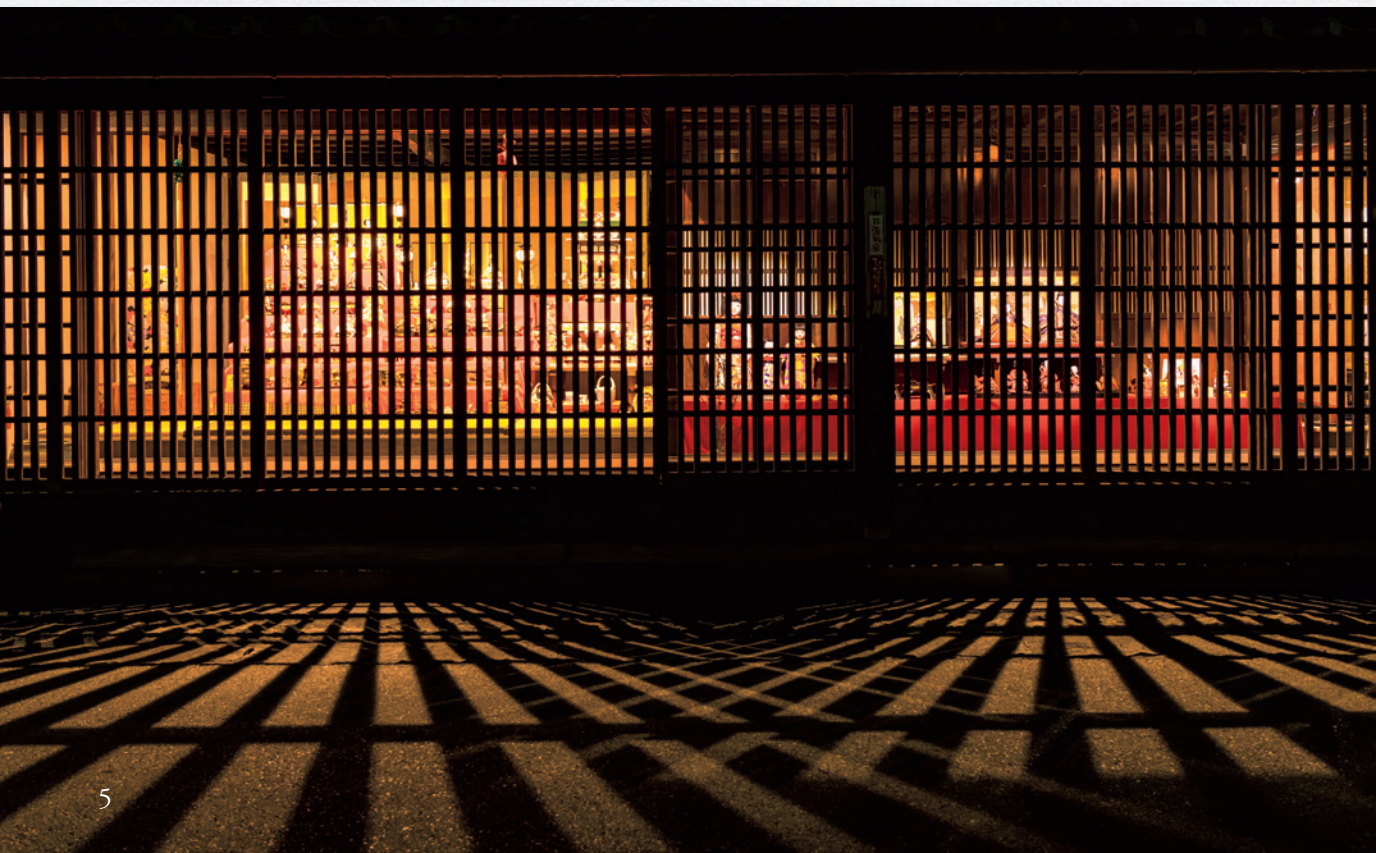
車：常磐自動車道那珂ICから約75分、東北自動車道白河ICから約50分

今日の法語
「生きがい」

磯山 正邦（いそやま せいほう）
（東京都墨田区　正福寺（しょうふくじ））

生きがい

「生きがい」という日本語は、「ＩＫＩＧＡＩ」という英語になっています。
あるアメリカ人は……
①あなたが好きなもの
②世の中が必要としているもの
③対価に値するもの
④あなたが得意なもの
これら四つの中心に在るのが「ＩＫＩＧＡＩ」だと考えました。
生きがいは夢や未来のことではなく、意思を持って「今日」を生きることなのです。また、「今日の朝、早く起きた理由。それが生きがいです」ともいっています。
あなたは、今朝なぜ早起きしましたか？





祈りの実践と「生きる力」

―祈りに灌がれる仏さまの力「洒水加持」と寺院行事―

法要などで行われる「洒水加持」によって、道場に参列する多くの人々が浄められ、仏さまから降り灌がれる力を授かることができます。写真は真言宗智山派平成24年度の教化年次テーマ啓発ポスターに使用されたもので、総本山智積院の朝のお勤め（廻向法要）において、金堂の参列者に向けて能化さま（お導師さま）が洒水加持を行う姿をとらえたものです。ご本尊である大日如来のお力が、お導師さまの作法によって皆さまに付与されることを表しています。

写真／村中修

人生百年時代を生きる

医療の進歩や生活環境の向上によって、日本人の寿命が毎年のように伸びており、特に女性の平均寿命は九十歳に迫る勢いです。日本人の百歳以上の人口が一九九八年に初めて一万人を突破して以来、二〇二〇年には八万人超えと、かつてないほどの長寿を手に入れています。一方で、「長生きはしたいけど、長生きすることに不安を感じる」という思いを持つ人が増えているそうです。長寿はめでたいことですが、長くなった引退後の生活について、老後資金の不足や寝たきりにならないかなどの健康不安も新たな課題となっています。それに対して国をあげて取り組みがされているものの、根本的な不安を解消されるまでには至っていないようです。一つの問題が解決すると、新たな問題が出てくるものであり、不安は常に付きまといます。では安心して毎日を過ごすために、私たちはいかに生きればよいのでしょうか？その一つとして私たち真言宗智山

派では、皆さまの心の安寧を願って実践していただく、わたしたちの目標「生きる力―仏さまに祈り、仏さまと出会う」を掲げています。

祈りのすがた ―灑水加持―

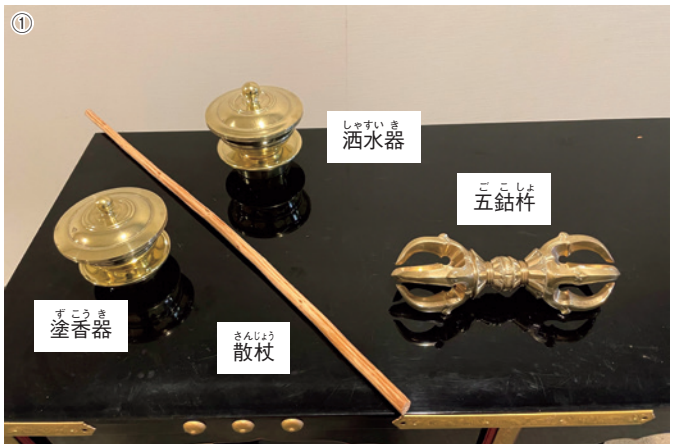
真言宗智山派の多くの寺院では、「仏さまに祈り、出会う」ためのさまざまな年中行事・法要が執り行われています。そしてその中では僧侶が「灑水加持」という作法を行うことがあります。散杖と呼ばれる細い木の棒で、水の入った仏具を打ち、その棒を仏さまに、もしくは参列者の皆さまに向けて指揮者のように振っている姿を見たことはないでしょうか。これはあらゆる世界に大悲の水を灌ぐことを意味する密教の作法です。

この作法では、灑水器という法具のなかに香水（香木などのお香を混ぜた清浄な水）を入れます。水は不浄のものを流し去り、お香は香りを隅々まで満たす力があります。それらを合わせ、僧侶が加持作法をすることで、仏さまの力をいただいた浄水となります。この浄水を灌ぐことで、世界（道場）と人々（行者）が浄められます。その力は広大で、私たちの心の中の汚れも清浄にしてくれるのです。

このように、灑水加持にはとても深い意義があるのです。菩提寺などで授かる機会がありましたら、どうぞ心静かにお受けください。

お寺の行事と祈りの実践

皆さまの菩提寺など多くの寺院では、ご先祖さまを供養する施餓鬼会やお盆、ご先祖さまをはじめ自然や生物などすべてのいのちを慈しむ行事でもあるお彼岸、また、仏教を開かれたお釈迦さまの三大行事（花まつり、成道会、常楽会）など、一年間をとおしてさまざまな仏教行事が営まれていることでしょう。これらの行事では、仏さまに祈り、出会う実践として、皆さまと一緒にお経をお唱えしたり、写経や阿字観などが体験できる寺院もあります。これらの行事に参加し、さまざまな形で仏さまやご先祖さま、亡き人に手を合わせ、祈りをとおして「つながり」が感じられるのです。そして、今このように生きていられるのは、ご先祖さまのおかげ、仏さまのおかげなど、さまざまなご縁によって生かされ





①灑水加持で用いられる仏具。蓋の付いた器は香水といわれる清浄な水を入れた「灑水器」と、所作をする僧侶の身を浄める塗香というお香の入った「塗香器」。香水を灌ぐための棒は「散杖」といい、香水に仏さまのお力をいただくものが「五鈷杵」です。

②智積院金堂のご本尊大日如来に向かって灑水加持をされる智積院化主第七十二世布施浄慧猊下。

ていることに気づきます。生きていられることは当たり前ではなく、有り難いことなのです。そこから感謝の気持ちというものが生まれてくるのでしょう。時として私たちは思いどおりにならないと、不平不満をいいがちになりますが、そのような状況であっても、感謝の念を持つことで不平不満が減り、自然と心が安らいでいくことでしょう。

真言宗の教えではこのようにさまざまなご縁、おかげさまのなかにいることを「加」といい、そのことに気づき感謝の念を持つことを「持」と表現し、仏さまとのご縁に気づき、その中に暮らすことを「加持感応の世界に住する」といいます。

子供の健やかな成長と寺院行事

人生のなかには節目となる行事がたくさんあります。誕生、七五三、成人式、結婚など、大きな節目のときに新たな人生の門出として寺院へお参りすることもあります。ここでは特に子供の成長に関する行事についてみてみましょう。

子供が生まれてくる前には「子宝祈願」、妊娠五ヶ月目の戌の日に行う「安産祈願」。生後七日目に行う「お七夜」。生後一ヶ月ほどで行う「初参り（お宮参り）」。百日目には一生食べ物に不自由しないようにと願い行う「お食い初め」。初めての「節句」（男の子は五月五日の端午の節句、女の子は三月三日の桃の節句）では無病息災を願います。一歳の誕生日には、無事に一歳を迎えたことに感謝し、一升餅をついて踏ませたり背負わせたりして一生健やかであるように願う行事もあります。さらには七五三や十三参りなど、子供が主役の行事はたくさんあります。これらの行事でも、仏さまとのご縁を結ぶ洒水加持は広く行われているのです。

子供の健やかな成長を祈るこれらの行事は、子供自身の思いよりも親の方がその思いが強いものです。でもそれはいたって自然なことです。その親心があるからこそ子供は大きな安心感のなかで生きていけるのです。

このように、親が子を思う気持ちと同じように、生きとし生けるものの幸せを願ってくださるのが仏さまなのです。親がすぐ近くにいることで子供が安心するように、我々のすぐそばで仏さまが守ってくださっているということを、祈りをとおして感じましょう。そして、各寺院で行われている仏教行事や、写経、写仏、御詠歌や阿字観など、仏さまと





③花まつり法要で、誕生仏に甘茶を灌ぐ檀信徒。このように仏さまなどに灌ぐ作法はさまざまありますが、洒水加持は古来インドにおいて、王様の即位式で七海の水を王の頭に灌いだ作法が元になっています。

④初参りで子供に洒水加持を行う様子。仏さまとのご縁を結ぶ洒水加持は、子供の健やかな成長を願う法要においても、行われることがあります。写真は筆者のお寺で行われたものです。

Vol.104 生きる力 SHINGON
仏さまに祈り 仏さまと出会う

目 次

智山寺院探訪 医王山 薬王寺……2
今日の法語（磯山正邦）……5
特集　祈りの実践と「生きる力」……6
お大師さまとご信仰（田村宗英）……10
教えは伝わる―真言八祖解説―（別所弘淳）……11
図解・仏教ガイド
「マンガでわかる十三仏㉒」（え・悟東あすか）……12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう（佐藤芳典）……14
日本の四季を切り取る十七文字（星野高士）……15
総本山の便りをお知らせします……16
らせんのなかのブッダガヤ（中嶋亮順）……18
ごくらくらくご（三遊亭竜楽）……19
知っておきたい仏事 Q&A……20
百号記念御祝ありがとうございました・編集後記……22
真言宗智山派出版物のご案内……23
桃山の息吹に触れる（安原成美）……24
お大師さまのご生涯
―お大師さまカルター―（川﨑一洸・三船毅志）……26
僧侶と学ぶ仏像鑑賞の伊呂波（池田英真）……28
花に聞く 仏に聞く（佐々木隆元）……29
私のお大師さま
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko（内藤理恵子）……30
ご本尊さまと出会う（小笠原隆浩・黒川広志）……31

出会う修行体験をぜひ実践してください。

「祈り」のある生活こそが安心感を得られ、「生きる力」につながっていくのです。

激変する時代のなかで不安に感じることは誰しもがあることですが、そんな時代だからこそ、一度ゆっくり立ち止まり、どのように暮らしていくべきかを考えてみてはいかがでしょうか。

仏さまに祈り、出会う暮らしは、皆さまの心を安らかにしてくれます。どうぞ菩提寺やご縁のお寺に足を運び、生きる力を育んでいただきたく存じます。

（智山教化センター所員／花木義賢）

表紙

桜舞い散る白鷺城
兵庫県姫路市



受け継がれてきた多くの木造天守が戦時中の空襲で焼失した。その中で奇跡的に難を逃れて、今日もその眩い白さをまとった姫路城を見ることができるのは、とても幸せなことである。春になると毎年、薄紅色に咲く桜と白亜の城をひと目見ようと多くの人で賑わっている。

P5

格子戸越しに浮かぶ雛飾り
長野県東御市



海野宿は「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されていて、また「日本の道百選」にもなっており、北国街道の宿場町の一つである。ひな祭りの３月には、街道沿いの家々の格子越しにお雛さまが飾られて、夜のライトアップは日中とは違う幻想的な雰囲気に包まれる。

撮影・解説／山梨将典

平成十年十二月十六日第三種郵便物認可「生きる力のTENGON」第一〇四号　令和三年三月一日発行　年四回（六月・九月・十二月・三月の一日）発行　定価一〇〇円（税込）
発行人／芙蓉良英　編集／智山教化センター　発行所／〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町九六四　総本山智積院内　真言宗智山派宗務庁

第7回智積院写真コンテスト作品募集

智積院境内で撮影された
作品を募集します
みなさまのご応募
おまちしております

☆応募テーマ
「智積院の四季 ～祈りの空間～」
☆撮影、応募期間
令和3年3月1日(月)～令和4年2月28日(月)

※詳しくは総本山智積院ホームページの「第7回智積院写真コンテスト開催のお知らせ」をご覧ください。

http://chisan.or.jp/chishakuin/event/news/contest07



写真は第5回写真コンテストの入選作品です

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL：075-541-5361　FAX：075-541-5364

写経のつどい
毎月21日　13時より
於　智積院金堂地下ホール
（納経料　千円・要事前申込）

智積院阿字観会
毎月12日　14時より（受付13時より）
※8月と12月は8日　14時より
於　智積院金堂地下ホール
（参加灯明料五百円・要事前申込）

宿坊 智積院会館
一泊朝食付きプラン
8,300円から
（宿泊税・消費税込／夕食別途 3,300円から 消費税込）
ご予約・お問い合わせ
TEL 075-541-5363
・JR京都駅よりバス約10分
・京阪電車七条駅より徒歩約10分
※ご宿泊のご予約は、6カ月前の1日より開始いたします。令和3年2月現在、令和3年8月分までのご予約を受け付けております。
※ご予約は智積院公式ホームページからもできます。
※GoToトラベル事業者に登録されています。詳しくは、お電話でお問い合わせください。

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002　東京都港区愛宕1-3-8
TEL：03-3431-1081　FAX：03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日（毎月8日）
※8日が土日祝の際は第一金曜日
・大護摩供法要　12時より
・写経会（納経料千円）　14時より
3月8日(月)
4月8日(木)
※花まつり灌仏会法要　11時30分より
5月7日(金)

やすらぎ寄席
毎月第3木曜日　18時30分より
於　本堂（木戸銭千五百円）
3月18日　談志一門会
4月15日　三遊亭
5月20日　談志一門会

真福寺阿字観会
昼の部15時より
※夜の部は当面の間中止にします。
於　本堂（無料・要事前申込）
3月23日(火)
4月27日(火)
5月25日(火)

Facebook　智積院　検索

※ご案内の行事は、新型コロナウイルス感染症の影響により、延期または中止となる可能性がございます。詳細は、記載の連絡先へお問い合わせください。